



コンフィギュレーションファイルの取り扱い

-
- [構成ファイルの概要, on page 1](#)
- [コンフィギュレーションファイルの管理, on page 2](#)
- [構成のアーカイブと構成ログ \(14 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルを使用した作業例, on page 19](#)
- [構成ファイルに関する追加情報, on page 20](#)

構成ファイルの概要

コンフィギュレーションファイルには、Cisco NX-OS デバイス上の機能を設定するために使用される Cisco NX-OS ソフトウェアのコマンドが保存されます。コマンドは、システムを起動したとき（startup-config ファイルから）、またはコンフィギュレーションモードで CLI にコマンドを入力したときに、Cisco NX-OS ソフトウェアによって解析（変換および実行）されます。

スタートアップ構成ファイルを変更するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用してスタートアップ構成に実行構成ファイルを保存するか、ファイルサーバーからスタートアップ構成へ構成ファイルをコピーします。

コンフィギュレーションファイルのタイプ

Cisco NX-OS ソフトウェアのコンフィギュレーションファイルには、実行コンフィギュレーションとスタートアップコンフィギュレーションの2種類があります。デバイスは、その起動時にスタートアップコンフィギュレーション（startup-config）を使用して、ソフトウェア機能を設定します。実行コンフィギュレーション（running-config）には、スタートアップコンフィギュレーションファイルに対して行った現在の変更が保存されます。2つのコンフィギュレーションファイルは別々の設定にできます。デバイス構成は、永続的ではなく一時的に変更することもできます。この場合、グローバルコンフィギュレーションモードでコマンドを使用することにより、実行コンフィギュレーションを変更しますが、スタートアップコンフィギュレーションにはその変更を保存しないようにします。

実行構成を変更するには、**configure terminal** コマンドを使用して、グローバル構成モードを開始します。Cisco NX-OS コンフィギュレーションモードの使用時には、通常コマンドはすぐに実行され、入力直後またはコンフィギュレーションモードを終了した時点で実行コンフィギュレーションファイルに保存されます。

スタートアップコンフィギュレーションファイルを変更するには、実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションに保存するか、コンフィギュレーションファイルをファイルサーバからスタートアップコンフィギュレーションにダウンロードします。

Related Topics

[実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存](#) (3 ページ)

[リモートサーバからのスタートアップコンフィギュレーションのダウンロード](#) (6 ページ)

コンフィギュレーション ファイルの管理

ここでは、コンフィギュレーション ファイルの管理方法について説明します。

構成ファイルのスタートアップ構成へのコピー

デバイスをリロードせずに、FTP または SCP を使用して構成ファイルをスタートアップ構成に直接コピーできます。

手順の概要

1. `copy scheme://[user@]server/[url]/filename startup-config`

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><code>copy scheme://[user@]server/[url]/filename startup-config</code></p> <p>例 :</p> <pre>switch (boot) # copy scp://user@123.40.56.78/wp/user/abc_cfg startup-config</pre>	<p>SCP または FTP を使用して、構成ファイルをスタートアップ構成に直接コピーします。 <i>scheme</i> 引数に対しては、 ftp または scp を入力できます。 <i>user@</i> 引数はユーザー名、 <i>server</i> 引数はリモートサーバーのアドレスまたは名前、 <i>url</i> 引数はリモートサーバー上のソースファイルへのパスです。</p> <p><i>user@</i>、 <i>server</i>、 <i>url</i>、 および <i>filename</i> 引数では大文字小文字が区別されます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		このプロセスでは、デバイスをリロードする必要はありません。

実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存

実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに保存することで、次にデバイスをリロードするときのために変更を保存できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show running-config**
2. **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 2	copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

リモートサーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー

内部メモリに保存されたコンフィギュレーションファイルをリモートサーバにコピーして、バックアップとして使用したり、他の Cisco NX-OS デバイスを設定するために使用したりすることができます。

手順の概要

1. **copy schemerunning-configserver://[url]/filename/**
2. **copy schemestartup-configserver://[url]/filename/**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>copy scheme<i>running-config</i>server://[url /]filename /</p> <p>例 :</p> <pre>switch# copy running-config tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak</pre>	<p>リモートサーバへ実行コンフィギュレーションファイルをコピーします。</p> <p><i>scheme</i> 引数に対しては、tftp:、ftp:、scp:、sftp:、http:またはhttps:を入力できます。<i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、<i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。</p> <p><i>server</i>、<i>url</i>、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。</p>
ステップ 2	<p>copy schemestartup-configserver://[url /]filename /</p> <p>例 :</p> <pre>switch# copy startup-config tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak</pre>	<p>スタートアップコンフィギュレーションファイルをリモートサーバにコピーします。</p> <p><i>scheme</i> 引数に対しては、tftp:、ftp:、scp:、sftp:、http:またはhttps:を入力できます。<i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、<i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。</p> <p><i>server</i>、<i>url</i>、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。</p>

例

次に、リモートサーバへ構成ファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy running-config
tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak
switch# copy startup-config
tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak
```

リモートサーバからの実行コンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモートサーバにアップロードしたコンフィギュレーションファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモートサーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP) を使用してデバイスに、または Secure Shell FTP (SFTP) を使用して実行コンフィギュレーションにダウンロードします。

Before you begin

ダウンロードするコンフィギュレーションファイルが、リモートサーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

Cisco NX-OS デバイスがリモートサーバにルーティングされることを確認します。サブネットワーク間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルトゲートウェイがない場合、Cisco NX-OS デバイスとリモートサーバは同一のサブネットワーク内にある必要があります。

ping または **ping6** コマンドを使用して、リモートサーバへの接続を確認します。

SUMMARY STEPS

1. **copy *scheme://server[/url]/filename* running-config**
2. (Optional) **show running-config**
3. (Optional) **copy running-config startup-config**
4. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p>copy <i>scheme://server[/url]/filename</i> running-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config</pre>	<p>リモートサーバから実行コンフィギュレーションファイルをダウンロードします。</p> <p><i>scheme</i> 引数に対しては、tftp:、ftp:、scp:、sftp:、http:またはhttps:を入力できます。<i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、<i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。</p> <p><i>server</i>、<i>url</i>、および<i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。</p>
ステップ 2	<p>(Optional) show running-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# show running-config</pre>	<p>実行設定を表示します。</p>
ステップ 3	<p>(Optional) copy running-config startup-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	<p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>
ステップ 4	<p>(Optional) show startup-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# show startup-config</pre>	<p>スタートアップコンフィギュレーションを表示します。</p>

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

リモート サーバからのスタートアップコンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモート サーバにアップロードしたコンフィギュレーションファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモート サーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP)、Secure Shell FTP (SFTP)、HTTP、または HTTPS を使用してデバイスにファイルをダウンロードして、スタートアップ構成にダウンロードします。



Caution この手順を実行すると、Cisco NX-OS デバイス上のすべてのトラフィックが中断されます。

Before you begin

コンソール ポート上のセッションにログインします。

ダウンロードするコンフィギュレーションファイルが、リモート サーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

Cisco NX-OS デバイスがリモート サーバにルーティングされることを確認します。サブネット間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルトゲートウェイがない場合、Cisco NX-OS デバイスとリモート サーバは同一のサブネットワーク内にある必要があります。

ping または **ping6** コマンドを使用して、リモート サーバへの接続を確認します。

SUMMARY STEPS

1. **write erase**
2. **reload**
3. **copy scheme://server[/url /]filename running-config**
4. **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase Example:	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを削除します。

	Command or Action	Purpose
	switch# write erase	
ステップ 2	<p>reload</p> <p>Example:</p> <pre>switch# reload This command will reboot the system. (y/n)? [n] y ... Enter the password for "admin": <password> Confirm the password for "admin": <password> ... Would you like to enter the basic configuration dialog (yes/no): n switch#</pre>	<p>Cisco NX-OS デバイスをリロードします。</p> <p>Note デバイスを設定するために、セットアップユーティリティを使用しないでください。</p>
ステップ 3	<p>copy scheme://server/[url /]filename running-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config</pre>	<p>リモート サーバから実行コンフィギュレーションファイルをダウンロードします。</p> <p><i>scheme</i> 引数に対しては、tftp:、ftp:、scp:、sftp:、http:またはhttps:を入力できます。<i>server</i> 引数は、リモート サーバのアドレスまたは名前であり、<i>url</i> 引数はリモート サーバにあるソース ファイルへのパスです。</p> <p><i>server</i>、<i>url</i>、および<i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。</p>
ステップ 4	<p>copy running-config startup-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	<p>実行コンフィギュレーション ファイルをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。</p>
ステップ 5	<p>(Optional) show startup-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# show startup-config</pre>	<p>実行設定を表示します。</p>

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

外部フラッシュメモリ デバイスへのコンフィギュレーションファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーションファイルをバックアップとして外部フラッシュメモリ デバイスにコピーできます。

Before you begin

外部フラッシュメモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** {slot0: | usb1: | usb2:}[*directory*]
2. **copy running-config** {slot0: | usb1: | usb2:}[*directory*]/*filename*
3. **copy startup-config** {slot0: | usb1: | usb2:}[*directory*]/*filename*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir {slot0: usb1: usb2:}[<i>directory</i>] Example: switch# dir slot0:	外部フラッシュ メモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	copy running-config {slot0: usb1: usb2:}[<i>directory</i>]/ <i>filename</i> Example: switch# copy running-config slot0:dsn-running-config.cfg	外部フラッシュメモリ デバイスに実行コンフィギュレーションをコピーします。 <i>filename</i> の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy startup-config {slot0: usb1: usb2:}[<i>directory</i>]/ <i>filename</i> Example: switch# copy startup-config slot0:dsn-startup-config.cfg	外部フラッシュ メモリ デバイスにスタートアップコンフィギュレーションをコピーします。 <i>filename</i> の引数では大文字と小文字が区別されます。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

外部フラッシュ メモリ デバイスからの実行構成のコピー

Cisco NX-OS デバイスを設定するには、別の Cisco NX-OS デバイスで作成され、外部フラッシュ メモリ デバイスに保存されたコンフィギュレーション ファイルをコピーします。

Before you begin

外部フラッシュ メモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** {slot0: | usb1: | usb2:}[*directory*]
2. **copy** {slot0: | usb1: | usb2:}[*directory*]/*filename* **running-config**
3. (Optional) **show running-config**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir {slot0: usb1: usb2:}[directory/] Example: switch# dir slot0:	外部フラッシュ メモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	copy {slot0: usb1: usb2:}[directory/]filename running-config Example: switch# copy slot0:dsn-config.cfg running-config	外部フラッシュ メモリ デバイスから実行コンフィギュレーションをコピーします。filename の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 4	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。
ステップ 5	(Optional) show startup-config Example: switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

内部ファイルシステムへのコンフィギュレーションファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーションファイルをバックアップとして内部メモリにコピーできます。

SUMMARY STEPS

1. **copy running-config** [filesystem:][directory/] | [directory/]filename
2. **copy startup-config** [filesystem:][directory/] | [directory/]filename

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	copy running-config [<i>filesystem:</i>][<i>directory/</i>] [<i>directory/</i>] <i>filename</i> Example: <pre>switch# copy running-config bootflash:sw1-run-config.bak</pre>	実行コンフィギュレーションファイルを内部メモリにコピーします。 <i>filesystem</i> 、 <i>directory</i> 、および <i>filename</i> の各引数では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	copy startup-config [<i>filesystem:</i>][<i>directory/</i>] [<i>directory/</i>] <i>filename</i> Example: <pre>switch# copy startup-config bootflash:sw1-start-config.bak</pre>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを内部メモリにコピーします。 <i>filesystem</i> 、 <i>directory</i> 、および <i>filename</i> の各引数では、大文字と小文字が区別されます。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

以前の構成へのロールバック

メモリ破損などの障害が発生し、バックアップされたバージョンからコンフィギュレーションを復元することが必要になる場合があります。



Note **copy running-config startup-config** コマンドを実行するたびに、バイナリ ファイルが作成され、ASCII ファイルが更新されます。有効なバイナリ コンフィギュレーション ファイルを使用すると、ブート全体の時間が大幅に短縮されます。バイナリ ファイルはアップロードできませんが、その内容を使用して既存のスタートアップ コンフィギュレーションを上書きできます。**write erase** コマンドがバイナリ ファイルをクリアします。

SUMMARY STEPS

1. **write erase**
2. **reload**
3. **copy configuration_file running-configuration**
4. **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase Example: switch# write erase	スイッチの現在のコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 2	reload Example: switch# reload	デバイスを再起動します。ブートして実行するデバイス用のキックスタートおよびシステムイメージファイルを提供するよう求められます。 Note デフォルトでは、 reload コマンドは、スタートアップ構成のバイナリバージョンを使用してデバイスをリロードします。 reload ascii コマンドを使用すれば、デバイスのリロード時に構成の ASCII バージョンをスタートアップ構成にコピーできます。
ステップ 3	copy configuration_file running-configuration Example: switch# copy bootflash:start-config.bak running-configuration	以前に保存されたコンフィギュレーションファイルを実行コンフィギュレーションにコピーします。 Note <i>configuration_file</i> ファイル名引数では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 4	copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

存在しないモジュールのコンフィギュレーションの削除

シャーシから I/O モジュールを取り外す場合は、実行コンフィギュレーションからそのモジュールのコンフィギュレーションを削除することもできます。



Note シャーシの空のスロットに対するコンフィギュレーションのみを削除できます。

Before you begin

シャーシから I/O モジュールを取り外します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show hardware**
2. **purge module *slot* running-config**
3. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show hardware Example: switch# show hardware	デバイスに取り付けられたハードウェアを表示します。
ステップ 2	purge module <i>slot</i> running-config Example: switch# purge module 3 running-config	実行コンフィギュレーションから存在しないモジュールのコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 3	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

構成の削除

デバイス上のコンフィギュレーションを削除して、工場出荷時のデフォルト値に戻すことができます。

デバイス上の永続メモリに保存された次のコンフィギュレーションファイルを削除できます。

- 新興企業
- Boot
- [デバッグ (Debug)]



Note **write erase** コマンドを使用すると、次のものを除くすべてのスタートアップ構成が削除されます。

- ブート変数定義
- 次のものを含む **mgmt0** インターフェイス上の IPv4 コンフィギュレーション
 - アドレス
 - サブネットマスク

mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成を削除するには、**write erase boot** コマンドを使用します。

SUMMARY STEPS

1. **write erase [boot | debug]**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase [boot debug] Example: <pre>switch# write erase Warning: This command will erase the startup-configuration. Do you wish to proceed anyway? (y/n) [n] y</pre>	永続メモリのコンフィギュレーションを削除します。デフォルトのアクションにより、スタートアップコンフィギュレーションが削除されます。 boot オプションを使用すると、 mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成が削除されます。 debug オプションを使用すると、デバッグ構成が消去されます。 Note このコマンドは、実行構成ファイルに保存されません。

非アクティブなコンフィギュレーションのクリア

非アクティブなサービス品質 (QoS) やアクセス制御リスト (ACL) の構成はクリアできません。

手順の概要

1. (任意) **show running-config** タイプ **inactive-if-config**
2. **clear inactive-config policy**
3. (任意) **show inactive-if-config log**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>(任意) show running-config タイプ inactive-if-config</p> <p>例 :</p> <pre># show running-config ipqos inactive-if-config</pre>	<p>非アクティブな QoS と ACL のコンフィギュレーションをすべて表示します。</p> <p><i>type</i> 引数の値は、aclmgr および ipqos です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • aclmgr : aclmgr の非アクティブな構成を表示します。 • ipqos : qosmgr の非アクティブな構成を表示します。
ステップ 2	<p>clear inactive-config policy</p> <p>例 :</p> <pre># clear inactive-config qos clear qos inactive config Inactive if config for QoS manager is saved at/bootflash/qos_inactive_if_config.cfg for vdc default & for other than default vdc: /bootflash/vdc_x/qos_inactive_if_config.cfg (where x is vdc number) you can see the log file @ show inactive-if-config log</pre>	<p>非アクティブなコンフィギュレーションをクリアします。</p> <p><i>policy</i> 引数の値は、qos および acl です。</p> <p>次に、値について説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • qos : 非アクティブな QoS 構成をクリアします。 • acl : 非アクティブな ACL 構成をクリアします。 • acl qos : 非アクティブな ACL 構成および非アクティブな QoS 構成をクリアします。
ステップ 3	<p>(任意) show inactive-if-config log</p> <p>例 :</p> <pre># show inactive-if-config log</pre>	<p>非アクティブなコンフィギュレーションをクリアするのに使用されたコマンドを表示します。</p>

構成のアーカイブと構成ログ

このセクションには、構成アーカイブと構成ログに関する情報が含まれています。

構成アーカイブの詳細

構成アーカイブは **configure replace** コマンドにより提供される構成のロールバック機能を強化するために、構成ファイルのアーカイブの保存、整理、管理を行うことを目的としたメカニズムです。構成アーカイブの導入前にも、実行構成のコピーを **copy running-config destination-url** コマンドを使用して保存し、ローカルやリモートに置換ファイルを保管できました。ただし、この方法ではファイルの自動管理を行うことはできませんでした。一方、構成の置換とロールバック機能では、実行中の構成のコピーを構成アーカイブに自動的に保存する機能を備えてい

ます。アーカイブされたファイルは構成のチェックポイントとして参照することができ、**configure replace** コマンドを使用して以前の構成状態に戻すために利用できます。

archive config コマンドを使用すると、Cisco IOS 構成を構成アーカイブに保存できます。その場合、標準のディレクトリとファイル名のプレフィクスが使用され、バージョン番号（およびオプションでタイムスタンプ）が自動的に付加されます。バージョン番号は連続したファイルを保存するごとに、1つずつ大きくなります。この機能により、保存した構成ファイルを一貫して識別できます。アーカイブに保存する実行コンフィギュレーションの数は指定することができます。アーカイブ内のファイル数が上限値に達すると、次に最新のファイルが保存されるときに、最も古いファイルが自動的に消去されます。**show archive** コマンドを使用すると、コンフィギュレーションアーカイブに保存されているすべてのコンフィギュレーションファイルに関する情報が表示されます。

構成ファイルを保存する構成アーカイブは、**configure replace** コマンドで使用することによって、次のファイルシステム上で見つかります。

- お使いのプラットフォームが `disk0--disk 0: disk1: ftp: pram: rcp: slavedisk0: slavedisk1:` または `tftp:`
- プラットフォームに `disk0--bootflash:`、`tftp:`、および `ftp` がない場合：



(注) この機能の TFTP および FTP は、VRF 管理を使用します。

設定アーカイブの特性の設定

archive config コマンドを使用する前に、コンフィギュレーションアーカイブを設定しておく必要があります。構成アーカイブの特性を構成するには、次の作業を実行します。

手順の概要

1. `switch# configure terminal`
2. `switch(config)# archive`
3. `switch(config-archive)# path url`
4. `switch(config-archive)# maximum number`
5. `switch(config-archive)# time-period url`
6. `switch# archive config`
7. `switch# show archive log config all`

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>switch# configure terminal</p> <p>例 :</p> <pre>switch# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 2	<p>switch(config)# archive</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# archive</pre>	<p>アーカイブ構成モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p>switch(config-archive)# path url</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-archive)# path bootflash:myconfig</pre>	<p>構成アーカイブに、ファイルのディレクトリとファイル名プレフィックスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアプラットフォームによって、ファイルシステムの名前は、例に示しているものとは異なる可能性があります。 <p>(注) パスのところでファイルの代わりにディレクトリを指定する場合、ディレクトリ名は path flash:/directory/ のように後ろにスラッシュを付ける必要があります。このスラッシュはファイル名の後ろでは必要ありません。ディレクトリを指定する場合にだけ使います。</p>
ステップ 4	<p>switch(config-archive)# maximum number</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-archive)# maximum 14</pre>	<p>(任意) 設定アーカイブに保存する実行設定のアーカイブ ファイルの最大数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> numberは構成アーカイブに保存できる実行構成のアーカイブファイル数の上限値を示します。指定できる範囲は 1 ~ 14 です。デフォルトは 10 です。 <p>(注) このコマンドを使用する前に、path コマンドを設定して、構成アーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<pre>switch(config-archive)# time-period url</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-archive) # time-period 10</pre>	<p>(任意) コンフィギュレーションアーカイブに現在実行中のコンフィギュレーションのアーカイブファイルを自動保存する間隔を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定アーカイブに現在の実行設定のアーカイブファイルをどれほどの頻度で自動保存するかを、<i>minutes</i> 引数により分単位で指定します。 <p>(注) このコマンドを使用する前に、path コマンドを設定して、コンフィギュレーションアーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。</p>
ステップ 6	<pre>switch# archive config</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# archive config</pre>	<p>現在の実行設定ファイルを設定アーカイブに保存します。</p> <p>(注) archive config コマンドを使用する前に、path コマンドを構成する必要があります。</p>
ステップ 7	<pre>switch# show archive log config all</pre>	<p>すべてのユーザーの構成ログ エントリを表示します。</p>

構成ログに関する情報

構成変更通知およびロギング機能は、構成ログを保持することで、実行構成に加えられた変更を追跡します。この構成ログは、CLI または HTTP のみを介して開始される変更を追跡します。アクションルーチンの呼び出しが発生する完全なコマンドが記録されます。次の種類の入力はログに記録されません。

- 結果的に構文エラー メッセージが表示されるコマンド
- デバイス ヘルプ システムを呼び出す一部のコマンド

この構成ログは、CLI または HTTP のみを介して開始される変更を追跡します。実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 設定変更のシーケンス番号
- コマンドが実行された行
- コマンドを実行したユーザーの名前
- 実行されたコマンド

show archive log config all コマンドを使用して、構成ログからの情報を表示できます。

実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 実行されたコマンド
- コマンドが実行されたコンフィギュレーション モード
- コマンドを実行したユーザーの名前
- コマンドが実行された時間
- 設定変更のシーケンス番号
- コマンドへのパーサー返還コード

設定ログの情報を表示するには、**show archive log config** コマンドを使用します。ただし、Parser Return Code は、内部だけで使用されるため、除外されます。

構成ログ エントリの表示

構成ログ エントリを表示するために、構成変更ログは **show archive log config all** コマンドを提供します。

手順の概要

1. switch# **show archive log config number [end-number]**
2. switch# **show archive log config user username**
3. switch# **show archive log config user username first-index start-number [last-index end-number]**

手順の詳細

手順

ステップ 1 switch# **show archive log config number [end-number]**

すべてのユーザーの構成ログ エントリを表示します。

例：

```
switch# show archive log config all

NDEX   LINE           USER           LOGGED COMMAND
 1     console0      user01         | logging console 1
 2     console0      user01         | logging monitor 2
 3     console0      user02         | system default switchport shutdown
 4     console0      user02         | interface mgmt0
 5     console0      user02         | no shutdown
```

ステップ 2 switch# **show archive log config user username**

指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

例：

次の例では、指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

```
switch# show archive log config user user02
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
3	console0	user02	system default switchport shutdown
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

ステップ 3 switch# show archive log config user username first-index start-number [last-index end-number]

構成ログ エントリをインデックス番号で表示します。オプションの last-index を指定する場合、指定したユーザーの開始番号から終了番号までの範囲のインデックス番号を持つすべてのログエントリが表示されます。

例：

次の例では、ユーザー名 user02 のユーザーの構成ログ エントリ番号 4 および 5 を表示します。開始インデックスと終了インデックスの範囲は 1 ~ 2000000000 です。

```
switch# show archive log config user user02 first-index 4 last-index 5
Last Log cleared/wrapped time is : Wed Oct 19 00:53:08 2016
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

デバイス コンフィギュレーションの確認

POAP を使用してデバイスのブートストラップ後の構成を確認するには、次のコマンドのいずれかを使用します：

コマンド	目的
show running-config	Running Configuration を表示します
show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

これらのコマンドの出力フィールドの詳細については、ご使用のデバイスの Cisco Nexus コマンド参考資料を参照してください。

コンフィギュレーションファイルを使用した作業例

ここでは、コンフィギュレーションファイルを使用した作業例を示します。

コンフィギュレーションファイルのコピー

次に、bootflash: ファイルシステムに実行コンフィギュレーションをコピーする例を示します。

コンフィギュレーションファイルのバックアップ

この例では、bootflash: ファイルシステムにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy startup-config bootflash:my-config
```

この例では、TFTP サーバにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy startup-config tftp://172.16.10.100/my-config
```

この例では、bootflash: ファイルシステムに実行コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy running-config bootflash:my-config
```

以前の構成へのロールバック

現在のコンフィギュレーションを以前保存したコンフィギュレーションのスナップショットコピーにロールバックするには、次の手順を実行する必要があります。

1. **write erase** コマンドで、現在の実行イメージをクリアします。
2. **reload** コマンドで、デバイスを再起動します。



Note デフォルトでは、**reload** コマンドは、スタートアップ構成のバイナリバージョンを使用してデバイスをリロードします。

reload ascii コマンドを使用すれば、デバイスのリロード時に構成の ASCII バージョンをスタートアップ構成にコピーできます。

3. **copy configuration_file running-configuration** コマンドで、以前保存した構成ファイルを実行構成にコピーします。
4. **copy running-config startup-config** コマンドを使用して、実行構成をスタートアップ構成にコピーします。

構成ファイルに関する追加情報

ここでは、構成ファイルの管理に関する追加情報について説明します。

構成ファイルの関連ドキュメント

関連項目	マニュアルタイトル
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』
コマンドリファレンス	

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。